備中名所圖會

一

ル 4
4247

早稲田大學圖書館
昭30.2.23受
藏書

早稲田大學圖書館
4247
巻 1

名勝考序

乙号第

早稲田文庫

神武天皇龍驤于本州高島一舉而平定天下遂開無窮之統舊跡遺蹤至今彰々也雖乃普天之慶其輝光於我也大矣且名勝百餘大率大嘗歌頌而詠也恭惟大嘗之禮　天皇即位之始首舉之散齋一月致齋三日新建二殿祀天神於悠紀殿祭地祇於主基殿其禮極嚴亡選十有四

國卜土吉於其中神祇官承國司以定祭
田嚴爲界限吏勸民耕至秋收輸稻於御
廩乃舂諸齋院以供粢盛夫新嘗之禮起
於　始祖天照大神郊祀昉於　神武天
皇大嘗備於　天武天皇之朝天下之重
祀國家之大典莫盛於此焉延喜以降省
其十一定修紀祭田於近江主基祭田於
丹波及本州命詞臣詠當國之勝地以爲

樂歌且以爲舂歌又書其詞於新殿屏風
并圖其景近江丹波蓋取諸便近其於遠
方也乃天下之廣擴本州中其選專其榮
豈無由邪其他搢紳賞詠之地亦往々有
之恨經歲久遠名泯地疑者蓋多矣向者
雖有二三考勘豪合傳會猥雜難信覽者
病焉壬申秋或勸余撰備中志余以其事
至重且老病不任辭之甲戌秋復勸之兒

清之清〻謀諸余曰志豈易言哉若夫名
勝之考則游歴於山川原野紬繹考索以
尋其筆研庶以足以舒情適意乎餘為後
圖可矣頃者書成質諸余且請題卷首余
乃書其平生所懷以與之云
文化十二年乙亥秋
楢園　小寺清先撰

備中名勝考序

まうあがりて世の大高人の影のまの
まはしに世ふるまう人ことのとの世
のうれふれもくあらはれて正義
あほへ世のあきい国の
中ふうせられてあほへうを基本に
さしかれあめをしのあるい浦島
野原あまてまて大高人す数のまの絶

まうあ大法屏風の絵ふかう絶
絵ひふふもくくくくくくくくくくくく
絵くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
十うちのくうつまれて大きくくくの
ひくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

漫ゆく様もとゝ絶かゝる情ゆたるゝ
ことゝ出てゝ子母の外れくゝ
あゝを物の子のゝ子ゝ法ゝ
つゝ考ゝ合ゝ考ゝ合ゝ今
まゝの如ゝ国の名ゝ
ゝゝり郡名の国ゝ名郡
法歌ゝあゝゝ国の法ゝ

二年あゝり郡名ゝ四のゝ
今法ゝの郡法を考ゝ
元年郡名ゝれの郡あゝ
二年郡名ゝ二年の郡名ゝ備中
名所考と名付ゝ
ゝゝれたゝの法ゝ
地名の名ゝれたゝ郡名郡名
ゝゝと絶ゝたゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

多誤矣故或湮没不顯居其處而莫之知者余嘆其如此不顧機才歷察其地徵之諸籍以記之命曰備中名勝考云

文化十二歳次乙亥八月

小寺清之識

凡例

一今までの名所。凡四十所。今加へたる名所。凡八十所バかり。そは泡よ。れの（旧説今按）ゑるまべきがごとくなれども。ゐ。ロかちて志るまべきがごとくなれども。地名を。大かたいはらかに志られるもの。ゆて。當とへで。言傳。神籍。長ら。長尾。西村。岩屋。山。岩見山。松山など。旧説よりて志らるるにあらば。まこと幸守宮。物籍。小田郡。英賀郡などい。おのれが引出たるのをよて。その地い。今按をまつぼきにあらば。もとよりいちじるしもものなり。そは大かたの世代人のたゆと。なの當をにしはまバ。おくに。旧説と今按を。志るさでもきみぬべき事なれば世。旧説の誤をたゞしはしきをはげつらひ。れの考へつることをれとも。ことはちに今按を志るもをこがましとしたるなれもかゆまバ志るさぞ。

一地名のたぐひ。世にもあまたあれど。定めがたきもの。古社府まをきさ所多あれど。さきかたの。よりどころあるも。これをとる。

一古の府より。いづれも。さくして。志るしも何も。れなどかゝ称るハ。昔よりの名くも志たがへるにより。まこと所のさ酒ふもよる。

一地の名。よくあへるハ。ほの考れためし。志だらあつぱき所なれど。他より

一此国なる詠歌ハ。ほの考れためし。志だらく似かよひたるを志る。

も志られぬ。ふあり。これ未詳として。ほの考をまつ。下に圏をたるなり。

をまつ。下に圏をたるなり。

一大嘗會和歌集より出らふ。撰集より載られたるを。撰集より出く。

一引所の書。まこと。一章の内。一首の内。

よ。地名二あるハ。同じ地歌。たるぎき文をふ

たゝびあげつ。

一古歌多ふ所ハ。人このよく志まるとこゝ

なれば。今ハそれ中よ。ゆ載きと。大嘗会ゆ歌

とをゆく。

一今引所の所本よ。文字の倍まるとふ。脱らふと

え。ばぐゝなるハ。あるえれぐなれ。ゆるハあ

ら志免て。そゝよしをトよ志るまを。うたがそ

しれハ。志のきびしてそゝトよ。たのれがた

もひよれるを。ろゝろみよいへる所もあを。

一古ハ。石の字を。イハよはしてよ免を。石屋。石

畳神社。石見国の例なを。此書よ。石侍。石屋。石

隈。石多。石井。石目。石倉。石村なゞ。ゝおイハと

よ免を。この故ゝ今。イヒ何とよゞ所を。あて

たるもゆるなを。

一よ所の国なる名所の徒歌をひらて。わが国

ゆ名所とたる書ありて。そゝ里人も。まゞ

へる所あり。そゝ保をいへんハ。かの里人の。

おもそんるもゆるゞ称まゞ。まゞひとてゝ

ひらん。人とらんともなふばき事なれど。
そなたさらばるゆゑ。おくにものしつ。

備中名勝考上目次

行宮部
高嶋宮　葦守宮　山方

神社部
有末神社　石屋山社　神村社
柏嶋社　木綿峠社　神嶋神社
高岡社

郡部
小田郡　英賀郡

里部

板倉里　大井郷　野山里
深井里　二万郷　川邊里
冨田郷　倉垣郷　豊邑里
中井郷　稲井里

村部

長良村　松尾村　長尾村
八重村　吉田村　石倉村
きゝ弘村　玉村　玉田村
石村　永冨村

鴻部

角枝鴻　日間嶋　茂石嶋
戸鴻　柏嶋　大嶋
祢嶋　宮嶋　月出鴻
白石嶋　出鴻嶋

浦部

玉浦　金浦　磯間浦
茂浦

山部

吉備中山　吉備のお山　弓木山
鼓山　雄倉山　石屋山

神村山　位山　日芝山
叢倚山　麻佐木山　妓山
冨山　大倉山　石貝山
加佐米山　石倉山　宮月山
孫宮山　松原山　七田山
玉孔毛山　松山　宮倉山
秋坂山　大村山　宮機山
黒髪山　黒見山　直山

備中名勝考上

小寺清之輯録

行宮部

○高嶋宮　小田郡神島郷に属す○宮島の内なり。王泊といふ所あり。これ皇居の御跡なりとかたつゝたり。そは。ちぐにくだけたる瓦形ぐ坂出きり。をりしに。瓦物い。つちみてまでるまで。

日本書紀云。神日本磐余彦天皇御巻　乙卯年。春三月。甲寅朔。己未。徙入吉備國。起行宮以居之。是曰高嶋宮。積三年間。備舟檝。蓄兵食。將欲以一舉。而平天下也。

古事記云。同天皇御巻 於吉備之高嶋宮。八年坐

○葦守宮 賀陽郡足守より四隣あり

日本書紀云。輕嶋明宮御宇天皇御巻 二十二年。秋九月。辛巳朔。庚寅。亦移居於葉田 葉田此云蔀娜 葦守宮。

山方 窪屋郡山手。○西郡。地形。谷。宿。是をいふ。てれ山方形りとなり。海の方を海手。河の方を河手といひて。手ハ方社云なれるが如し。さて此山手ハ。文字ハ幸山と書来れり。幸行ゆきしかの名なるべし。

古事記云。難波高津宮御宇天皇御巻 天皇聞看吉備海部直之女。名黒日賣。其容姿端正。喚上而使也。然畏其大后之嫉。逃下本國。云云。天皇戀其黒日賣。云云。幸行吉備國。尒黒日賣命。令大坐其國之山方地。而獻大御飯。於是爲煑大御羹。採其地之菘菜時。天皇到坐其嬢子之採菘處。歌曰

夜麻賀多迩。麻祁流阿袁那母。岐備比登登。等母迩斯都采婆。多怒斯久母阿流迦。

此章のもハ。卿巻よりあげつらひれまたも比のもハ。此章よりよるべし。

神社部

宮滝王泊

○有木神社 賀陽郡宮内村に在

大嘗會和歌集に云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

有木山の神祠

前筑前守従五位上藤原朝臣経衡

初めこゝに志賀元禾山なれども此山なれば此方社なり。記に

示す。第四の白社。かくあらたなつ。れ

とよ誤れり。今あらたなつ。

石凝山社 社は山。賀陽郡真坂村に在。今いそ

尾村の形山に。ひろ人のわゝらく。黒

山王宮。これ。岩凝山社内方也。そ山の

大嘗會和歌集に云

西坂の田名を神村といひしなり

村人いはく

藤村なる老人も

いひつたへたり

千上元文三年に

中ゝ頃迄

山麓に書上しなり

村上天皇天慶九年主基備中國風俗神歌

ひたやや山 神祠

もゝやま新神も石凝山社の山なれども

千載和歌集に云

治暦四年後三条院の御時大嘗會主基方神

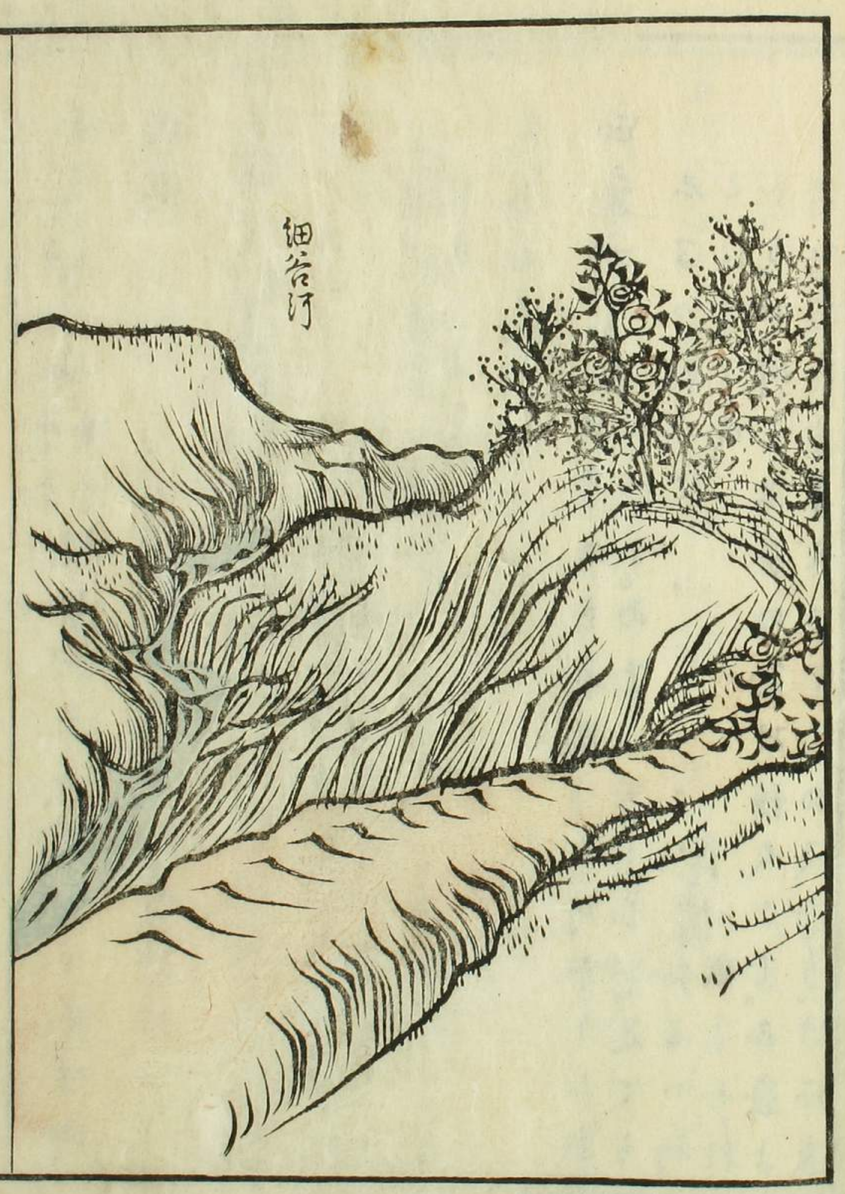
示の今いそや山とよめる 藤原経衡

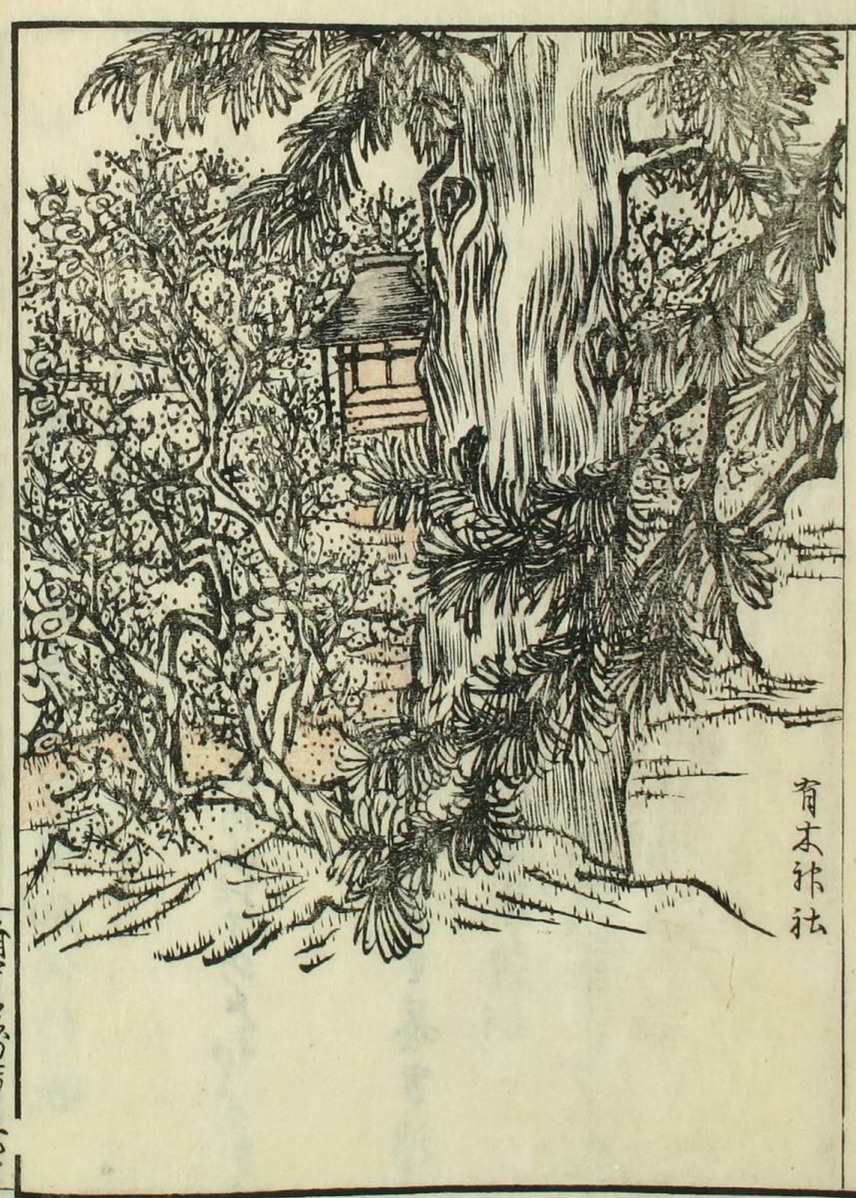
うこの代なるこの代なるいのるはそや山とふ榊葉の花のゝまて

○神村社 窪屋郡笹坂村の内。西坂に在。

今の天神社なるべし

万代和歌集に云


細谷河


宥太祢社

村の旧記よりゆ
又天祢社ハをき
代よりも山の禁よ
りつゝ行ふ
いつくもかゝ
らかるむけらる
きと思ひよれる
るありて是なる
べしきもくくて
くハ別巻より紀も

かゝもゝ山 祢宇倭中保安元年大嘗会を基方御
屏風 茂原行盛歌に

ゆ思振ゝみも山ゝ山ゝ
つみもゝ山ゝ。名宇。拾集などに。祢なひ
山ゝに。されゝ山ゝ。ゆ思ふ。今ハ万
代集よりも。

文未紗より云

正意大嘗会ハ度の方基方ハ。本州なり一事。
山ゝ紗より。あまゝ出ゝ。ふを。足ても
ゝるゝれバ。こ
こにゝるゝ。
ぐも。此御ハ保安の度社歌人より。正意より
ゆ。百六十年ぞゝ前の人なり。ハ正意

隆博 紗ゆい行
盛ゝあれ

のも。隆博御なる事。位山。日葵山などに。た
びゝ引るゝて。ゆゝ形ゝ形ゝバ改先つ
万代ゝゝてゝいのるゝもゝ祢村山の宴社ゝ
○柏宿社 後ハ歌。柏爲村の産祢。八幡社なる
でし。ハ原。古ハ。海の中ゝ在し所也。
大嘗会和歌集ゝ云
後冷泉院永承元年十一月十五日ゝ基方備中国
本院歌合 拾遺後撰 拾遺 新古今 新勅撰 続後撰
孟夏柏宴繋舟有採柏人
志ゝ仁生ゝふ柏竹ゝ生ゝ柏いのりゝて行月ゝ
○末綿宿社 後ハ歌。大谷村の内ゝ。夕宿とい
ふ所あり。ゝ仁ゝ生ゝなるでし。

今小社なり。○〻につゞきて
野宝寺を村も。勇傍といふ形り。

文永弘安云

大宰の任まてゆくる時　大弐言遠卿

神社まうゝにたきてのゝかくる末弥侍の松

此歌の為なる。甕泊の歌あまて。手摺詞ふも
大宰任まてゆくるの。おなじ度の歌と見ゆ。此ゆゑ傍ハ。かの
甕泊よりまた里ばゝ里西ゆきて。たの海路
なり〻瓦形り。昔ハ〻〻に。大木のわあり
て。代多をいまめたり〻ゞ。二十年傍り
おつかゆ社。大風ゆたゆゑ是〻里といへ里。
志かるに。播磨國の名所とゆふ書あるゝ。
路あり。なゝ那巻ゆ
はげつらひたけ里。

○神嶋神社　小田郡。神畑浦ゆれゝまゝ。
はるゝこ　○俗人ハ。興世明神とゆきゆゑ
形り。

延喜式神名帳云。備中國小田郡神嶋神社。

續拾遺和歌集ゆ云

建久九年大嘗會の基方の御屏風ゆ備中國
神島有神祠形ゆ　兼中納言資實

神路の浦ゆ〻ゆ〻ゆ〻

後一条院長和五年十一月二日を基備中國

内蔵権助書流藤原長為改

已帳 十三月 宮岡

[illegible]

原本なし。第二の句は。たるくを。たゝくとを。たるハ。誤なる事たるけきバ。あらゝえつ。

郡部

○小田郡 和名鈔云。小田太。

大嘗會和歌集より云

後冷泉院永承元年十一月十五日を基方備中國

原本なハ。白基方備中國の。六字なけきど。も。此永承の白基方ハ。本州なり。次の

英賀郡の歌。下のひける。詞書集は宮倉山の歌。金葉集は。二万々の歌なて。明らかなきバ。例よりよりてれたぐなひつ。次なるも。下郡なるも。永承の変は歌ハ。うなり。上なる。松島社の変なていふ居ゝ里ゝと。わきれて書をつるゆゑなり。こゝに物しつ。

本頭書墨書[illegible]藤原為長歌種

菅秋小田郡夕苅田家

[illegible]小田の郡なる稲の秋をこゝとよ見る歌なり

○英賀郡 和名鈔云。英賀阿加。古書ゝ郡。英の字やゝたれる。志たゞ[illegible]なる法。今所をかくハ。文字はた

大嘗會和歌集より云

後冷泉院永承元年十一月十五日を基方備中國

本文殊勝上讃後拾遺撰者家經

稲春哥

授穂　英賀郡

古歌の歌の題の歌の書物やつゝ和ぬまて詠きゝはむる
東かゝ。井にのゆ。ハつりゆとあるハ。綜
なるゑ。いちじるきゝ。あらゝゝゝ。

里部　郷名なるを郷と書て。郷。里。おかよはして志るきれ
ど。れおじく付
ゆよい走つ。

○板倉里　英賀郡。
板倉村。

大堂会和歌集より云

後三条院治暦四年十一月を基方備中國

板倉里

前筑前守従五位上藤原朝臣経衡

歌つゝ和ゑ。ゑ。ゑ。

文末鈔より云

乃やま弘里 備中山 西安大嘗會國〻名所考

大藏卿隆教

あつ〻ゑ和秋の登山弘里人はくりり彩る世の月をみるらゑ

○淵井里 今ハ別府と云。淵井村。

大嘗會和歌集より云

後一条院長和五年十一月主基備中國風俗

京都。御屏風の歌十八首あるて。次より此風俗歌よハ。備中國の三字と。歌の官〻を。えぶけ里。今わ〻ちて。志るを有る。備中國の三字を。御屏風の歌弘例よりて。れ〻

なしい。下かるる。この巳れの風俗の歌。う和志〻なり。

淵井里 和字郡 善法為政

家人考察

天下者よつ〻ふる法人ハ淵井弘里の多の紀〻ゑて

○二万郷下を郡。上二万村。下二万村。

金紫和歌集より云

後冷泉院の御附弘大嘗会の主基方備中國

二万郷より名〻

う〻ま和ゑ〻よ〻ゑ〻ゑ〻ゑ

小備中守　二万　備中西安大堂会

大蔵卿隆教

文應元年大堂会を基備中國稲春寺

従二位行家卿

○河邊里　下道郡　河邊村。

吏末鈔ニ云

川邊里　備中

大蔵卿隆教

○冨田郷　本郡ニあり。大堂会ニ名ある里なり。古くは冨田村と。四説ニ。玉田村と。是ニ。後ハ郡冨村とも。

大堂會和歌集ニ云

後三条院治暦四年十一月ニ基方備中國

前筑前守従四位上藤朝臣經衡

冨田郷堰河ニ入苗代

種ニ付る苗代ニ付ニ冨田社郷ニ備ニ入てそみる

○倉垣郷（後月郡。井原村の内より西。）

大嘗會和歌集より云

後一条院長和元年十一月主基備中國風俗

善滋為政

退出音声

倉垣郷

さゝ〻より數へかゝへて春の夕べ八代なつまむらさかりの山

末の白雲。山の字い。々の字を。倚まるゝ。ゆゑ

あらざりや。歌ふもたがひ。又倉垣い。山あるゆ

ゑ。ゆゑ。されど。今れ。ゆゑ。むね

あきだ。志ばらく。もとのまゝ。

○豊園里（哲多郡。豊岡郡。）神社多郡。宗河内村社四名。○今も

夫木抄より云

とよ岡社さゝ　豊岡神社　備中　西安大嘗会

大藤卿澄教

時よあゝ民のゑもやまゝけさ御代のゝ先社典園社さゝ

○中井郷（阿賀郡。中津井村。和名鈔云。中井奈加都井。）

大嘗會和歌集より云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

稲春手　中井郷

前筑前守従五位上藤原朝臣鍾衡

みゝをつむ氏の左先より清さゝむるなの名の稲社年穂るる式

原かよ。なゝの名を井とも。

今歌よりもてゆゝ者先つ。

○稲井里　吉備郡陽郡の境なるといふ処なるべし。井は清井。或は稲井とあるべきも。詞も書く。かつ下の井は不なり。稲井畔とも。稲井田といふ所あり。こゝ。もあり。堰きべきかどの河も切るせ。又小田郡字内ハ。詞迫し。稲生山とかいふ山なるべさゝ。堰きべ。稲生山とかいふ山。きれど低字たもあり。きれど低字たもあり。

道郡中庄村なり。稲井畔とも。稲井田といふ所あり。こゝ。

まども。苗代れなり。稲井畔とも。稲井田といふ所あり。こゝ。

ぎ。そかに。稲なに。まっきかどの河。下

もあり。て。不のさ。去っ里ともおもかゝ

詞も書く。かつ下の井は不なり。稲井畔とも。稲井田といふ所あり。こゝ。

陽郡の境井。或は稲井とあるべきも。稲井畔とも。稲井田といふ所あり。こゝ。

吉備郡の境といふ処なるべし。井は清井。或は稲井とあるべきも。稲井畔とも。稲井田といふ所あり。こゝ。

○稲井里　吉備郡陽

隆教

○長尾村 俗に殺。供田と唱へて。昔こゝ来れる田あり。長尾村。○今殺。大嘗会の時

新拾遺和歌集より云

後三条院御時大嘗会備中国司

長尾村　　藤原経衡

○八重村 俗に殺。八重村。

文末詠より云

八重村 俗中西安大嘗会　大蔵卿隆教

○吉田村 小田郡。吉田村。○撰書のトより。俗中トさ。細書あるハ。こゝろえがゝ

ト。まゝ。れりて。下さ。そ殺のト食よあて

る。志。志るしたるのこゝ。さて。吉田村の田

植寄より。此村のまセを。御代のえじ免より。れ

さむるよりたゝりもあゝまの村を

にも。又こゝ和こられまうゝ。是。それゝみ

の事ゝ。おのつゝら殺まるなるべくれも

ト伊きど。志ざらくこの村をあげ侍。

大嘗会和歌集より云

後土御門院文正元年主基 備中トさ

八重村

末久て繁てそ清くもむ民もよ田村のつるはしのいね

○石倉村 小田郡 岩倉村

文永鈔ニ云

石倉のむら 備中 正安大嘗会

大蔵卿隆教

[illegible]世ニ和ニ[illegible]村のきろ入りそ急うて

きり[illegible]むら 後月郡。本文ハ村。○いにしへ上にして。今ハ本文ハ村と書しと。ノ文字と下一説ニ。小田郡。是出村の内ニ。ききなたと[illegible]いへる山谷あり。是きぐのむら[illegible]ふ名の。然まる歌りといへり。

文永鈔ニ云

きり[illegible]むら 備中 正安大嘗会

大蔵卿隆教

色こそにそ[illegible]むる[illegible]北の[illegible]きり[illegible]むら[illegible]ハ今そしらふ

○玉村 川上郡。玉村。

大嘗会和歌集ニ云

後一条院長和元年十一月二日主基備中国

内蔵権助善滋為政

丁帖 七首 玉むら

[illegible]ハ[illegible]ていとく先[illegible]村ニ

後冷泉院永承元年十一月十五日ヨリ碁方備中國

本頭兼文章博士讃岐権介藤原敦長家經

平春朝人〻多自玉村三宅 此歌。文字のあやまりも。たちたるもてでし。今さたうなることを思ひえず。志ざらくやのまいにき。

○玉田村 川上郡 玉村

大業會和歌集ヨリ云

後冷泉院永承元年十一月十五日ヨリ碁方備中國

本頭兼文章博士讃岐権介藤原敦長家經

玉田ヨリ家兼稲。○原二文字脱たり 今考へがたし

ちくさみ玉田の村ヨリ家ゐてうふさ敷へいもひとのいね

系本ヨリ。第四のうた。

を。うとゝもふい侶なり。

○石村 上房郡 岩村

大業會和歌集ヨリ云

後冷泉院永承元年十一月十五日ヨリ碁方備中國

本頭兼文章博士讃岐権介藤原敦長家經

諸本ナシ

石村

春の代ハ世ちとせ経ぬる石むらを山ハ宮ねよあらく居ちぶ

○永冨村 阿哲郡 永冨村。

あしたづ

大嘗會和歌集より云

後圓融院永和元年主基備中

恵光

稲春年

なのりそみのむらあそをゆふなぎにつかをそてつく

鳴部

○鳥羽殿 於字和。多賀村。○歌よよれば。トリハなのるを。今ハトバといへり。この
ヨ多り。古そ海
なりし所なり。

大嘗會和歌集より云

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中國

仲夏為野為有牧馬急乎苅第人

牧駒とりそ苅まの交ゑまつけて塚のみまくたちよかまき

木之頭第五章惟士贊成樟界蔵第朔皮家經

○日間湯 窪屋郡。野為村。○ヒマシヤをつ
めて。今ハシヤといへるなり。又こ
ゝ日間山といふ山あり。今ヒルヤと唱ふ
どゝ。是野為なるべき歟。此所。今
ハ陸よりつゞ苅れどゝ
古そ海なりし所なり。

大嘗會和歌集より云

後三条院治暦四年十一月廿一日主基方備中國

日間鴻巣

前筑前守従五位上菅原朝臣經衡

元年より備中の守をかねたるあまのやすよりの卿なるべし。今はかりそめにまた。

○茨戸橋　和字新。是木村の山つゞきなる地名。本州より今はなくなりけん。今之橋はあらず。○此地名。本州より今絶て。備前國児島郡の地名也。かゝることはうつれるなるべし。昔は本州より立し事叶歌と。下より引天慶元年と。永承元年との。歌を見て。明らかなり。是木村の山つゞきなる。備前國の天城よりは。今児島郡なる。茨戸といふ所なり。そゞろに。橋ひとつかゝる事なるべし。本州の地名也。かゝることはうつりし

大嘗會和歌集より云

後一条院長和元年十一月主基備中國

内蔵権助善滋新長為政

乙帖

茨戸橋

波つ海もみとけつゝ見る代は茨戸に波のあらぬなりけり

○石橋　濱は新。乙橋なるべし。○此所石も。世までと。濱よりなれたりし石形なり。

大嘗會和歌集より云

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中國

木工頭兼安芸守従五位下讃岐権守藤原新長家経

此流家の農記に石窪人農は。農の俱なるべし。

て新系的てと。海より見波さきなるさきつゝに波そよそけるふ

玉田村

京中。常世の白。法の字
脱たり。今れぐ称ひつ。

○柏嵩 淀口称。柏嵩村。○こゝも。
今も淀よりたゝ紀たり。

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中國
木立院勇文事情尋撰筑樓茂京都住家種

益夏柏湾繫舟有棟松人

志に生る松の盃に柏いのもりて探て印用みて此る
○大湾 淀口称。大湾。○窪屋称ふも。因宿の北
方。されど。淀口称なるを。和名抄よ出
たるべ。これなるとる。こゝも。いにし
へ海の中よりしところ称り。